

名称	定義	備考
プリセプターシップ Preceptor ship	新人 1 人に対して決められた経験のある先輩看護師がマンツーマン(同じ勤務をいっしょに行う)で、ある一定期間オリエンテーションを担当する方法。	わが国では多くの施設でこの方法が用いられていると報告されているが、勤務をいっしょにしているところは少なく、決められた相談相手をプリセプターとしているところが多い。本来ならチューターシップに近い。日常的な勤務においては、先輩ナースといっしょに患者を受け持つ、補助アサインメントがとられている。 この方法の理念は、self-paced(新人のペースにあわせて)、self-directed(新人自らが主体にかかわる)ことである。
インターンシップ Internship	3~12 か月の見習い期間を研修生としてトレーニングを受ける方法。	インターンシップとは、学生が一定期間企業等の中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行える制度。最近では、看護基礎教育期間中に職場体験をすることをインターンシップとよんでいる。
仲間システム Buddy System	1 人の先輩が新人看護師全員のオリエンテーションの責任者となる方法。	この方法での新人指導、研修の報告は見あたらない。
補助アサインメント Coassignment	新人と先輩がペアで患者を受け持つ方法。プリセプターとの違いはその日その日で指導する先輩が変わることである。	プリセプターシップやチューターシップと組み合わせ、この方法が用いられていることが多い。
現場訓練(OJT) On-the-job-Training	新人が患者のケアを担当していく中で必要に応じて決められた資源の中から援助を求めていくという方法。	担当者が決まっているわけではないので、自立した段階ではこの方法を用いることができるが、新卒初期の段階では困難。 本定義は下記の文献を参考に書いているが、OJTは現場訓練のすべての方法を含むという広い概念として用いられることもある。
チューターシップ (チューター制度) Tutorship	決まった相談相手がいる相談や支援を求めていくことができるが、一緒に勤務でケアをするわけではない。	決められた相談相手がいることは新人にとって心強いとの評価であるが、この方法だけでは日々の業務における実践的指導ができない。補助アサインメントと組み合わせることが多い。
メンターシップ Mentorship	援助し、味方となり、指導し、助言し、相談するために個人(メンティー)によって選ばれた人が担当する方法。	メンターという言葉は人生経験の豊富な人、支援者、指導者、後見人、助言者、教育者の役割を全て果たす人を包括的に意味する言葉として用いられる。
エルダー制 Elder	決まった先輩看護師が相談役となり、生活・精神面での支援をする方法。	日本で命名され行われている指導方法で、エルダーとは年長者、先輩の看護職を意味する。他にシスター制、ブラザー制などの呼び名があるが、エルダー制と同義語として用いられる。

報告をみると新人指導、教育の方法は上記に示した方法の組み合わせもあり、多様である。また、言葉の定義も様々な状況である。そこで、古い文献ではあるが、下記の文献を参考にしながら、わが国の実情を表に加えた。

参考文献:W.L.Roberts et.al.(1986):Critical care nursing education: An overview. 15(2):115-126,HEART & LUNG.

## 教授法・学習法など

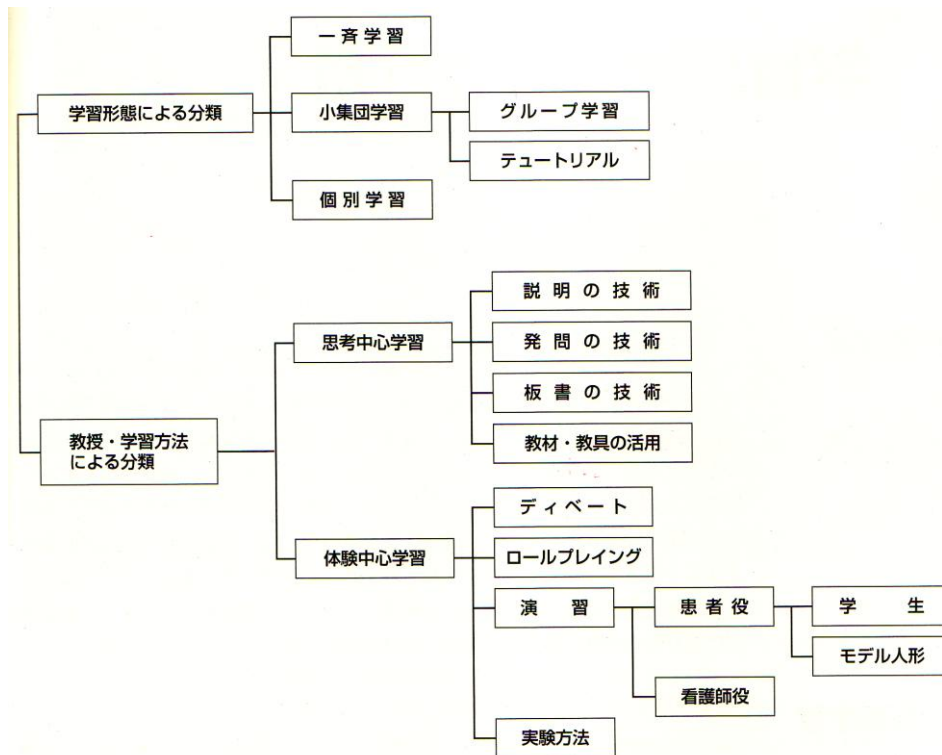
	名 称	定 義	備 考	
1	講義 演繹的教授 法	ルールを先に教える方法。 原理原則を学習し、ルールにあてはまる 事例へ応用する。	ルールは基本的に抽象的である ため、ルールを説明するため	井 上 (2007、 p52)
2	講義 経験を重視 する教授法	数多くの経験から帰納的に何らかの原 理・原則を身につけさせようとする方法。	状況に合わせて柔軟に対応しな ければならないようなときに必要 とされる技能の学習などに適して いる。論理的には効率が悪い が、コミュニケーション場面など では役立つことが多い。	井 上 ら (2007、 p54)
3	講義 習熟度別指 導	学習者の習熟度に合わせて行う指導 法。単純に進度を変えるのではなく、内 容の深さ・発展度に違いをつける場合が 多い。	主として進度の差が生じやすい 算数・数学など、理解と習熟が大 切な教科や内容の場合に用いら れる。レベル分けが大きな問題 で、下のレベルに分けられた子 が意欲を失う場合がある。	柴 田 ら (2005、 p106)
4	講義 映像を活用 した指導法	時間や場所などの制約下において、実 際にできるだけ近い体験をすることがで きる。		井 上 ら (2007、 p102)
5	演習 課題学習	探求的学習の代表。 学習者が興味・関心に基づいて学習テ ーマを選び、学習を進めていく方法。共 通学習をふまえて、課題の選択、個人お よびグループでの課題学習、発表・討論 を展開する。		柴 田 ら (2005、 p107) 井 上 ら (2007、 p86)
6	演習 ロールプレ イ	参加型・体験型学習形態のひとつ。 学習者がある人物になりきり、その役 割・演技を通して、物事の本質を理解し ようとするものやコミュニケーション能力 を育成しようとする方法。	長所としては、①そのテーマを身 近に感じられる、②自分とは異なる 視点から物事をとらえられる、 ③物事の問題点に気づきやす い、④コミュニケーション能力が 高められる、などの特長がある。	井 上 ら (2007、 p64・65)
7	演習 シミュレー ション	シミュレーションとは、模擬体験あるいは 模擬実験であり、現実に想定される条件 をとり入れて実際に近い状況を作り出 し、その状況について学習すること。		井 上 ら (2007、 p104)
8	演習 VR を活用し た疑似体験 学習	VR とはバーチャルリアリティ。身体や頭 の動きに合わせて、コンピュータで作成 された 3 次元の画像が、視覚的や感覚 的に提示される。実際に経験することが 難しいことを疑似体験することによって 学習する。		井 上 ら (2007、 p110)

9	演習 模擬患者を 用いた学習	模擬患者を対象に演習を行う方法。		
10	OSCE	客観的臨床能力試験(オスキー: Objective Structured Clinical Examination;)医学教育では, ①医療面接②身体診察(フィジカルアセスメント)③得られた情報から問題点を同定④必要な検査の選択と実施⑤検査結果の解釈⑥適切な治療計画の立案⑦インフォームド・コンセントの実施、などが導入され, 看護においても, フィジカルアセスメントを中心に導入されている。		
11	演習 その他疑似 体験	疑似体験による学習方法には, 上記の他, 演劇, ゲーム, もしくは文章またはコンピュータによる疑似体験がある。		ステューブンス (2003、 p65)
12	個人学習 プログラム 学習	学習過程を細分したスモールステップでつまづきを少なくし、自分のペースで学習を進められるようにした教材によって、個人別に学習させるものである。	良い教材の作成が大変である。	柴田ら (2005、 p106)
13	個人学習 実技チェック リストを用いた学習	学習者が手順をうまく実践するために、一つ一つの行動をリストアップし評価する。	看護学教育においては、しばしば教育方略の中核となっている。	ステューブンス (2003、 p63)
14	集団学習 グループワ ーク	小集団による体験学習を通して自己理解を深め、お互いの役割や影響力について学ぶ対人間関係能力を向上させるのに有効な学習方法。		
15	集団学習 ディベート	あるテーマについて相対する2組が、一定のルールに従って討論を行い、主張の論理性、実証性を競うゲーム的な討議法をいう。テーマを設定し、資料や情報の収集・検討を行い、討論の論理を構築し、討論会を実施し、評価することで全体が構築される。	1)客観的分析力、2)論理的思考力、3)発表能力、4)よりよい聞き手、5)情報収集力の能力を育てる。	
16	プレゼンテ ーション	自己の考えや意見を適切に組織化し、他者にそれを的確に伝える能力を学習する。		
17	デモンスト レーション	指導者が学習者のために実演して示す示範授業。指導者が模範(model)を示し、学習者が模倣(imitation)をする場面が多い。		

表 学習形態の分類

教師を基準とした分類	子ども-教材を基準とした分類
①狭義の教授法(講義・展示) ②自習法(経験・観察・実験・読書・反復・家庭作業) ③相互学習法(問答・討議・劇化) [細谷俊夫:『教育方法』]  ①講義法 ②討議法 ③発見法 [Gage NL: Teaching Methods]	一斉教育 { 講義-受容学習 発問-思考学習 討議学習  個人学習 { 発見学習 課題学習 プログラム学習

(教育学大辞典、252-253、第一法規出版、1978), 杉森(1999)p183より



佐藤(2006, p153)

文献)

井上智義、岡本真彦、北神慎司(2007)、教育の方法、樹村房  
 川島みどり、杉野元子、西本勝子(1989)、看護現任教育-プログラムづくりとその展開一、医学書院  
 佐藤みつ子、宇佐美千恵子、青木康子(2006)。看護教育における授業設計、医学書院  
 柴田義松、山崎準二(2005)、教育の方法と技術、学文社  
 杉森みど里(1999)、看護教育学、医学書院  
 キャスリーン・スティーブンス、バージニア・キャンディ(2003)、エビデンスに基づく看護学教育、医学書院